


第4回「県政タウンミーティング（熟議方式）」の開催結果について

教育総務課

| | |
|-----------------------|--|
| 開催日時 | 平成24年1月21日（土） 14時30分～17時30分 |
| 場 所 | 佐久合同庁舎 講堂 |
| 参 加 者 | <p>○熟議参加者 40名（5グループ） 公募の県民：16名、中学生：6名、高校生8名、県関係者：5名（阿部知事、高木委員、生田委員、山口教育長、小嶋次世代サポート課長）、ファシリテーター：5名</p> <p>○傍聴者 約30名</p> |
| テ ー マ | 「10年後の学校を考えよう」 |
| 熟議で出された意見（グループ発表から抜粋） | <p>○ 先生達が、自分たちの教えやすい子ども達をつくることに力を入れるのをやめて、子ども達が学びやすい環境をつくるのが大事ではないか。</p> <p>○ それぞれの学校でも、子ども達、地域住民、先生などが一緒になって課題や悩みを話す「熟議」を広げたい。</p> <p>○ 教員が、時間的・気持ち的な余裕を持つために、大学生や退職した先生など地域の人材を活用して、余裕のある学校にしていきたい。</p> <p>○ インターネット等を通じて、地域の方に得意分野や地域における各種名人などの情報を登録してもらい、人材活用を進める。</p> <p>○ 地域人材と学校を繋げるコーディネーターの設置が有効ではないか。</p> <p>○ 学校にお金がない問題は、学校、企業間にギブアンドテイクの関係をつくる。企業にお金を先行投資してもらい、学校は企業宣伝を行う。</p> <p>○ 毎月1回、様々な職業体験を行うことで、地域との交流プラス学力も高められるのではないか。</p> <p>○ 子ども達が人生設計を描けるようにするために、学校において、キャリア教育を充実すれば、即効性があるのではないか。</p> <p>○ 勉強は好きになりたい、楽しくなりたい。そのために、学校は学ぶ事が楽しいという環境をつくって欲しい。</p> <p>○ 学校では、違いを認め合う学級・仲間・学校づくりが必要。違いを認め合う事によって、いじめ等も少なくなっていくのではないか。</p> <p>○ 子ども達には、自分の住んでいる地域を大好きになって欲しい。</p> |
| 熟 議 の 様 子 |   |

「県政タウンミーティング(佐久市)」【平成24年1月21日】グループ毎のまとめ(発表資料から)

テーマ「10年後の学校を考えよう」

教育総務課

| グループ | 課 題 | 10年後の学校のありたい姿 | 実現のための方策・具体的なアイデア |
|------|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| A | ○人間関係 | ○たくさんの人とたくさん話す、理解をする。 | ○多くの人と関われる機会づくり(席がえ、レク、グループ学習) |
| | ○スポーツの活性化 | ○全国に通用する選手の育成 | ○体育館を作る ○小学校から始める環境 ○地域の方々へ指導者を依頼する |
| | ○興味がわくような授業 | ○全員が参加している授業 ○わからないときに、わからないと言える授業 | ○先生の話しだけの授業ではなく、授業が楽しく思えるような授業にする、どんな授業がいいか、先生に言うてみよう ○先生たちが「教えやすさ」から「子どもたちの学びやすさ」に考えを変えていこう！ |
| | ○地域とのつながり | ○学校と地域が協力し合える環境づくり | ○地産地消の給食を進める ○農作業の指導をしていただく ○読み聞かせボランティア活動に参加していただく ○すべての学校で子ども、先生、保護者地域の人が入った熟議を行う。 |
| B | ○地域の拠点となるには…防災地域コミュニティ | ○学校が地域の拠点になる | ○学校の統合については慎重に判断していく、小規模校も大切に |
| | ○生徒が積極的になるには…受け身 | ○生徒が行動の意味を知り自律する | ○教師が一切手を出さない授業、生徒が主体的に学ぶ授業 |
| | ○将来につながる学習になっているか ○目的・目標・夢を持っているか | ○のびのびとした学校生活 | ○職場体験をたくさん行う |
| | ○教員が余裕を持って生徒と接しているか | ○大人も子どもも元気になれる | ○学生・退職教員・地域人材の活用。教員増加 |
| C | ○学力・学習 | ○社会に出て役立つ学習が出来る学校 | ○地域人材のオンライン化 ○学校に社会センター ○毎月の職業体験 ○ギブアンドテイク(学校⇄企業) ○お金 ＜検証＞ 10年後に我々が検証するので、もう一度呼んでください。呼んでくれなくても集まります。 |
| | ○子どもの人間力 | ○多様な経験が出来る学校 | |
| | ○地域との連携 | ○いつでも関われる学校 | |
| | ○学校の設備、環境 | ○快適に学べる学校 | |
| D | ○学力の低下 & 制度疲弊 | ○学力向上！ | ○わかりやすい授業(教師の研究時間確保、授業力のUP！) |
| | ○ヒューマンリレーション | ○本音が言える人間関係！ | ○違いを認め合う学級・仲間・学校づくり。親の自立 |
| | ○PTCA(地域貢献) | ○地域の教育力の活用 | ○学校の主体性、市町村や保護者の主体性と責任を大切にする。 |
| | ○社会問題(子どもをとりまく環境) | ○人生設計が描ける社会 | ○キャリア教育の充実！企業と教育の緊密化！ |
| E | ○友達、先生とのコミュニケーションが必要 | ○目を見て！笑顔で！！大きな声で | ○【大 人】自分の住んでいる地域を好きになって欲しい ○【中学生】将来の夢 ・英語を使った仕事 → 日本にいないかも ・北海道へ行き、うまい物を食べる ・自然豊かで災害も少ない長野県に残る |
| | ○地域のみなさんとのつながり | ○地域の教育の活用 | |
| | ○勉強する意味 | ○【大 人】自分のためだよ ○【中学生】まだ、よく分かんない | |